

デジタルアーカイブ特講

第2講「デジタルアーカイブプロセス」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

Wonder沖縄

- ◆平成14年度沖縄デジタルアーカイブ整備事業により制作されたデジタルアーカイブ
- ◆整備費用は、国庫からの補助金10億円を含む15億5369万3000円(県は3分の1負担)
- ◆コンテンツ制作事業とコンテンツ提供(発信)事業に大別できる

Wonder沖縄



上映を主とした実写主体のコンテンツ

Wonder沖縄におけるアーカイブプロセス



「デジタルアーカイブプロセス」

【目的】

2000年代における第1次のデジタルアーカイブブームの現在の状況を見て、第1次のデジタルアーカイブブームのプロセスから何が問題で、今後何をどのように改善することが持続可能なデジタルアーカイブを開発するために必要であるかについて考える。

【学習到達目標】

- 「Wonder沖縄」におけるWeb用コンテンツがなぜ消滅したかについて説明できる。

2

Wonder沖縄



Web用コンテンツ



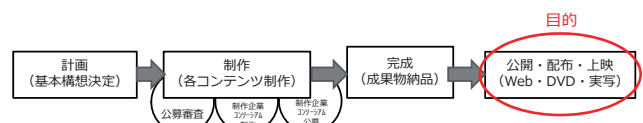
DVD用コンテンツ

「Wonder沖縄」とは

デジタルアーカイブの枠を超えた総合的な事業

平成22年度末(2010年3月末)をもって
Web用コンテンツの運用停止

Wonder沖縄におけるアーカイブプロセスの問題点



「長期保存」「知の増殖型サイクルの視点」のデジタルアーカイブプロセスが抜け落ちている!!

研究課題

「Wonder沖縄」のアーカイブプロセスでは何が足りなかったのか。どうすれば持続可能になったのかを考えなさい。

9

「知のデジタルアーカイブ」

【目 的】

知のデジタルアーカイブに関する研究会により知のデジタルアーカイブ という提言がされ、システム（技術）、人材育成、災害の3テーマに焦点を当てたグループを構成して議論を行った。こうした議論から、デジタルアーカイブのための技術、知識、ノウハウの共有の重要性、デジタル・ネットワーク社会に適したデジタルアーカイブ連携の必要性について考える。

【学習到達目標】

- 知のデジタルアーカイブの提言について説明できる。
- MLA連携などデジタルアーカイブの連携の必要性について説明できる。

2

デジタルアーカイブ特講

第3講 「知のデジタルアーカイブ」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

知のデジタルアーカイブ

- ◆ 「知のデジタルアーカイブに関する研究会」は、図書館、博物館・美術館、文書館（MLA）を中心としたデジタルアーカイブ構築の推進について議論するために、平成23年2月より検討を開始した。
- ◆ 目的は、「図書・出版物、公文書、美術品・博物品、歴史資料等公共的な知的資産の総デジタル化を進め、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み（デジタルアーカイブ）の構築による**知の地域づくり**に向けて、関係者が広く集まり、**デジタル情報資源の流通促進に係る課題の整理**を行い、**デジタルアーカイブ間の相互連携の促進**を図る」

知のデジタルアーカイブにおける現状認識と論点

- ◆ 博物館・美術館(Museum)、図書館(Library)、文書館(Archives)等の知的資産を収集、蓄積、提供する機関が持つ知的資産へのネットワークを介したアクセス性を高める。
- ◆ 機関間連携（**MLA 連携**）の推進
- ◆ **震災の記録としてのデジタルアーカイブ**の役割に加えて、災害に対する備えとしてのデジタルアーカイブの役割

研究課題

知のデジタルアーカイブの提言を受けて博物館・図書館・公文書館の現状と課題について論述しなさい。

5

デジタルアーカイブ特講

第4講 「デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

「デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドライン」

【目 的】

デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドラインが総務省から提言されている。ここでは、図書・出版物、公文書、美術品・博物品、歴史資料等公共的な知的資産の総デジタル化を進め、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組みを構築し、知の地域づくりを推進するため、地域の知の記録組織で活用することを提言している。

【学習到達目標】

- 知の地域づくりの推進するために必要なことは何かを説明できる。
- デジタルアーカイブの構築・連携において大切なことを説明できる。

デジタルアーカイブの構築・連携

- ◆ 「デジタルアーカイブ」を「図書・出版物、公文書、美術品・博物館・歴史資料等公共的な**知的資産をデジタル化し、インターネット上で電子情報として共有・利用できる仕組み**」を指すものとする。

このことにより、

- ◆ デジタルアーカイブを活用することで、いつでもどこでも、調べごとや学習・研究が行えるようになる。
- ◆ また、今までは広く公開されていなかった資料をデジタル化して公開することで、貴重な知的資産を誰もが見られるようになる。

このためには、

- ◆ デジタルアーカイブの構築・連携の方策を具体的に検討するうえで、自組織の現状に即した運用マニュアルを持ち、デジタルアーカイブ構築・連携の方針・戦略を定める必要がある。

ガイドラインの構成

- ◆ 「**第1章 デジタルアーカイブの構築**」では、デジタルアーカイブを構築するにあたっての前提を説明
- ◆ 「**第2章 デジタルアーカイブの連携**」では、構築したデジタルアーカイブの効果を高める「連携」の考え方について説明
- ◆ 「**第3章 デジタルアーカイブの実例**」では、第1章・第2章で紹介してきたデジタルアーカイブを実際に構築した例を取り上げている。
- ◆ 「**第4章 デジタルアーカイブの構築・連携の課題**」では、デジタルアーカイブに関連する課題を示している。
- ◆ 「**第5章 デジタルアーカイブの構築・連携の手引き**」では、連携可能なデジタルアーカイブを構築する際の手順を示している。

研究課題

デジタルアーカイブの構築・連携のためのガイドラインをよく読んで、それぞれの組織のデジタルアーカイブ構築・連携の手引きを完成しなさい。

5

デジタルアーカイブ特講

第5講「知の増殖型サイクルの情報処理システムの構成」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

「知の増殖型サイクルの情報処理システムの構成」

【目 的】

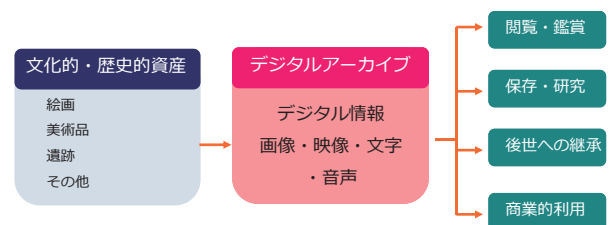
デジタルアーカイブのプロセスとして、知的創造サイクルをデジタルアーカイブに当てはめた知の増殖型サイクルを開発した。ここではこのシステムについて理解する。このためには、知の増殖型サイクルにおけるデータ分析・解析・加工処理システムなどのスキルやその考え方を知る必要がある。ここでは、これらのデータ処理における留意事項について考える。

【学習到達目標】

- デジタルアーカイブのプロセスとして、知的創造サイクルをデジタルアーカイブに当てはめた知の増殖型サイクルについて説明できる。

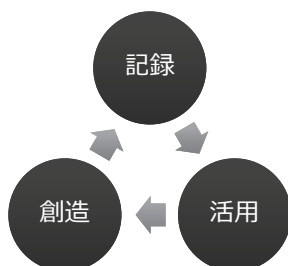
2

デジタル・アーカイブ構想 (Digital Archives)



デジタルアーカイブ：文化的・歴史的資産をデジタル化して、データベース化したもの

知的創造サイクルとしての地域資料デジタルアーカイブ



知的情報処理システムの構成

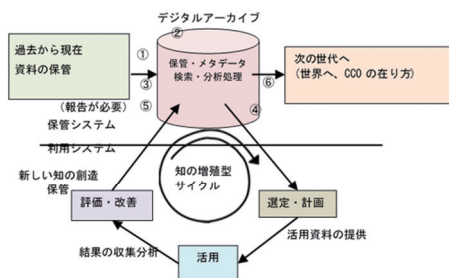


図1 知の増殖型サイクルと各システムの関係

記録（入力）の課題

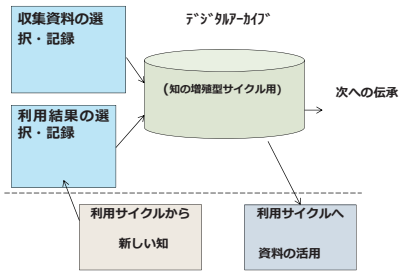


図2 記録とデジタルアーカイブの関係

デジタルアーカイブの管理システム

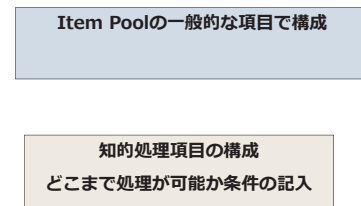


図3 メタデータの構造

検索・分析処理

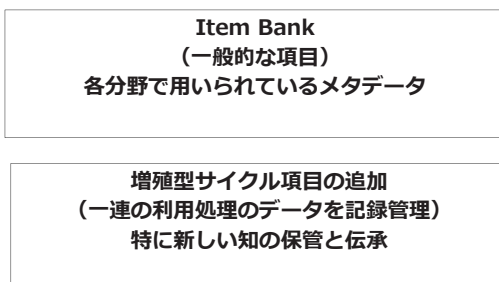
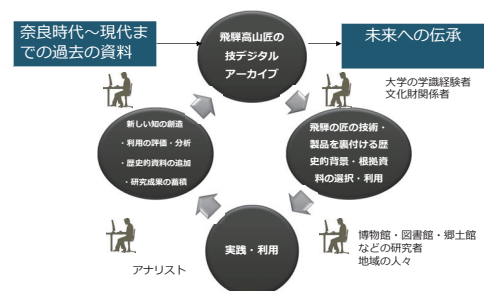


図4 メタデータの項目

飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの知的創造モデル



研究課題

知の増殖型サイクルにおけるメタデータの項目を作成してみなさい。なお、その際にDublin Core（ダブリン・コア）に配慮すること。

デジタルアーカイブ特講

第6講「首里城の復元とデジタルアーカイブの可能性」

久世均
(岐阜女子大学・教授)

「首里城の復元とデジタルアーカイブの可能性」

【目的】

沖縄戦では多くの文化資源が戦火に消え、首里城関係資料も多く消失した。前節で述べたように、首里城復元の際の資料収集は困難を極めたが、鎌倉芳太郎が残した資料が首里城復元に大きな役割を果たした。それは、鎌倉芳太郎が戦前に行った沖縄に関する調査記録や収集資料が、戦火を逃れ保存されていたということに尽きる。鎌倉芳太郎は沖縄で撮影したガラス乾板を自身の避難先である防空壕で保管していたという。これら保存されていた資料が、首里城復元において大きな役割を果たしたという事実は、「知の増殖型サイクル」の考え方に当てはめることができる。

首里城復元の際に利用された鎌倉資料は原資料であり、デジタルアーカイブではない。しかし、「知の増殖型サイクル」に適應することで、これからのデジタルアーカイブの在り方が見えてくる。

【学習到達目標】

- 鎌倉芳太郎と首里城復元の過程で説明できる。
- デジタルアーカイブという視点から鎌倉芳太郎資料集について説明できる。

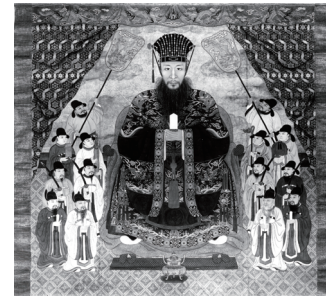
鎌倉芳太郎とは

- ◆ 香川県出身の染織家
- ◆ 1921(大正10)年に沖縄女子師範学校の教師として赴任し、琉球芸術に魅せられる
- ◆ 琉球文化の保存、調査研究の発信に取り組んだ
- ◆ 1973(昭和48)年「型絵染」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定

「鎌倉芳太郎資料」とは

- ◆ 鎌倉芳太郎が沖縄調査の折に沖縄現地で収集した琉球・沖縄芸術関係資料
- ◆ 大部分が沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館に収蔵
- ◆ ガラス乾板(1229点)、台紙付紙焼き写真(851点)、調査ノート(81点)は、重要文化財に指定

「鎌倉芳太郎資料」とは



十七代南風(しょうこう)王御後論
(沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館蔵)

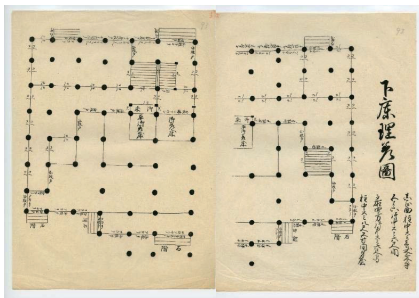
鎌倉芳太郎と首里城

- ◆ 1924(大正13)年、首里城取り壊しの動きを止める働きかけを行う
- ◆ 沖縄戦で消失した首里城復元の際の「鎌倉芳太郎資料」の活用

首里城復元における鎌倉資料

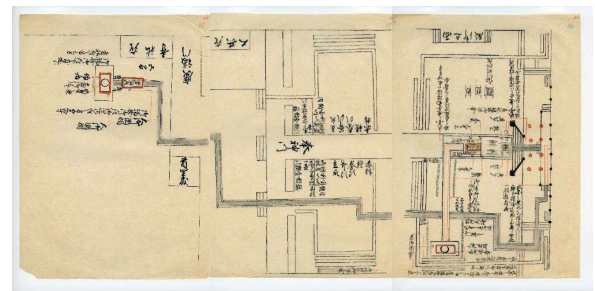
- ◆ 首里城復元においては、鎌倉芳太郎が残したノートや写真が大きな役割を果たした
- ◆ 岐阜女子大学主催の特別講演会において、高良倉吉氏は首里城正殿内の国王の玉座「上庫理御差床」の復元における「鎌倉芳太郎資料」の活用について多く語っている

首里城復元における鎌倉資料



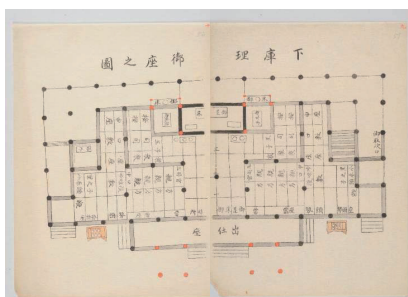
ももうらそえうどうんふしんにつきみえずならびにございもくすんぼうき
「百浦添御殿普請付御絵図并御材木寸法記」

首里城復元における鎌倉資料



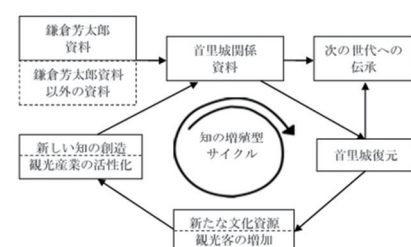
ずちよう しーどうほう
「図帳(勢頭方)」

首里城復元における鎌倉資料

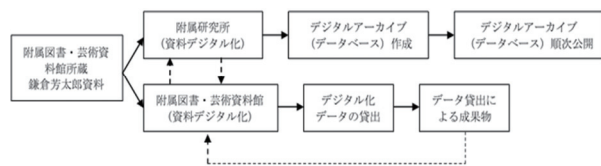


ずちようあたいはう
「図帳(当方)」

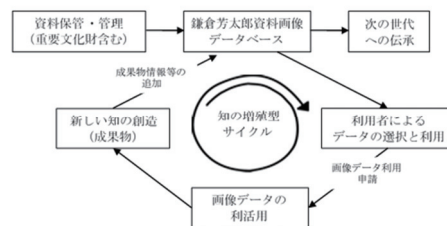
首里城復元と「鎌倉芳太郎資料」における「知の増殖型サイクル」の適用



「鎌倉芳太郎資料」における デジタルアーカイブ構造



「鎌倉芳太郎資料」における 「知の増殖型サイクル」の適用



研究課題

首里城の復元に鎌倉芳太郎の資料が重要であったか
についてデジタルアーカイブの視点で論述しなさい。

デジタルアーカイブシンポジウム（沖縄）

開催日	2019年7月14日（日）13:00～18:00
会場	沖縄女子短期大学 1階大教室 〒901-1304 沖縄県島尻郡与那原町東浜1番地
主催	岐阜女子大学・大学院、沖縄女子短期大学
講師	【特別講演】後藤忠彦（岐阜女子大学）【活動報告】眞喜志悦子、加藤真由美、山中マーガレット、加治工尚子（岐阜女子大学）、比嘉勇太（沖縄女子短期大学）【シンポジウム】山本洋子、千田寛之（株式会社 文化財サービス沖縄営業所）、武部拓磨（合同会社 T.R.F）
テーマ	デジタルアーカイブの利活用と課題
参加者	一般20名、学生30名

◇ 講座の様子（一部）



シンポジウム会場の様子



特別講演の様子



文化財の仕事とデジタルアーカイブ
（株式会社 文化財サービス沖縄営業所）



デジタルアーカイブの 利活用と課題

近年、デジタルアーカイブは、博物館・図書館のみならず、観光・企業・学校・市町村など多様な分野で利活用されています。たとえば、岐阜女子大学が開発した「沖縄おうらい」は、冊子やWebコンテンツとして、これまでにおよそ10万名の修学旅行生などに利用されてきました。（観光、学習素材） また、教育の面では、学力の向上等の課題解決に利用され、大きな成果が得られています。（課題解決） さらに、沖縄の企業や市町村等のデジタルアーカイブ開発も進みだし、地域の活性化に役立てられています。（地方創生）

文化庁の本年度予算では、日本の文化や文化財等のデジタルアーカイブのプレゼンや海外への発信、観光インバウンドへの利活用が求められています。中部国際空港では、岐阜女子大学のブランディング事業で開発した「飛驒の匠」デジタルアーカイブがプレゼン利用されることになりました。（6月開始予定）

このように、多様な分野において「デジタルアーカイブ」の利活用が進められています。

そこで、今回は、岐阜女子大学で開発を続けているデジタルアーカイブの利活用の状況と、地域の文化財等の記録・保管・提示を行っている企業の活動について紹介するシンポジウムを下記のとおり開催いたします。

日時

2019年 7月 14日（日） 13:00 ～ 17:30（開場 12:30）

会場

沖縄女子短期大学 〈大教室（1F）〉

講師

後藤 忠彦（岐阜女子大学 顧問）、株式会社 文化財サービス 他

主催

岐阜女子大学・大学院、沖縄女子短期大学

対象者

教育関係者、地方自治体関係者、企業、学生、一般

プログラム

特別講演 〈90分〉	デジタルアーカイブの利活用と課題 後藤 忠彦（岐阜女子大学 顧問）
活動報告 〈75分〉	① デジタルアーカイブを活用した 沖縄県の小学生の学力向上への取り組み 眞喜志 悦子（岐阜女子大学） ② 「沖縄おうらい」の開発・利用状況と今後の課題 加藤 真由美（岐阜女子大学） ③ 「沖縄おうらい」の英語紙芝居の試み 山中 マーガレット（岐阜女子大学） ④ 岐阜女子大学における地域資料のデジタルアーカイブ 活動のあゆみ ―沖縄サテライト校の例― 加治工 尚子（岐阜女子大学） ⑤ デジタルアーキビスト資格取得講座の実施状況について 比嘉 勇太（沖縄女子短期大学）
シンポ ジウム 〈60分〉	文化財サービスの仕事とアーカイブ 山本洋子・千田寛之（株式会社 文化財サービス沖縄営業所） 武部拓磨（合同会社 T.R.F.）

※ 都合により表記の内容と異なる場合がございます。ご了承ください。

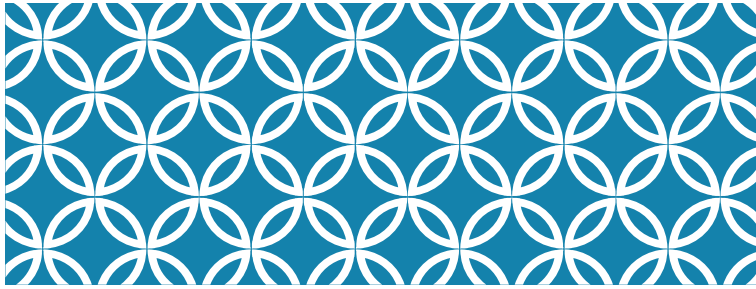


岐阜女子大学・大学院 沖縄サテライト校
〒901-1304 沖縄県島尻郡与那原町東浜1番地
沖縄女子短期大学 2F
TEL 098-943-9705 / FAX 098-943-9706

（事前申し込み・参加費不要）

7/14 シンポジウム 予定表

時刻	時間配分	担当者	内 容	備考・配布資料等
12:30 12:35 12:40 12:45 12:50 12:55	30	根間 ヒデ子 (岐女大) ほか全員	受付	
13:00 13:05	10	喜屋武 享 (沖女短) 新垣 さき (沖女短)	開会挨拶、本日の流れ 講師紹介	
13:10		後藤 忠彦 (岐女大)	デジタルアーカイブの利活用（処理）の課題	
13:15 13:20 13:25 13:30 13:35 13:40 13:45 13:50 13:55 14:00 14:05 14:10 14:15 14:20 14:25 14:30 14:35	90			
14:40 14:45	10		〈休憩〉	
14:50		眞喜志 悦子	デジタルアーカイブを活用した沖縄県の小学生の学力向上への取り組み	
14:55 15:00	15	(岐女大)		
15:05		加藤 真由美	「沖縄おっらい」の開発・利用状況と今後の課題	
15:10 15:15	15	(岐女大)		
15:20		山中 マーガレット	「沖縄おっらい」の英語紙芝居の試み	
15:25 15:30	15	(岐女大)		
15:35		加治工 尚子	岐阜女子大学における地域資料のデジタルアーカイブ活動のあゆみ	
15:40 15:45	15	(岐女大)	ー沖縄サテライト校の例ー	
15:50		比嘉 勇太	デジタルアーキビスト資格取得講座の実施状況について	
15:55 16:00	15	(沖女短)	ー沖縄女子短期大学の例ー	
16:05 16:10	10		〈休憩〉	
16:15		新垣 さき (沖女短)	講師紹介	
16:20		山本 洋子	文化財サービスの仕事とアーカイブ	
16:25 16:30 16:35 16:40 16:45 16:50 16:55 17:00 17:05 17:10 17:15 17:20	60	千田 寛之 (㈱文化財サービス) 武部 拓磨 (合同会社TRF)	・ Contents 1 株式会社 文化財サービスって会社、どんなことしてるの？ ・ Contents 2 アーカイブについて ・ Contents 3 3Dデータでの記録（合同会社 T R F 武部氏との対談）	
17:25	5		質疑応答	
17:25 17:30	10	喜屋武 享	閉会の挨拶	



デジタルアーカイブを活用した沖縄県の小学生の学力向上への取り組み

岐阜女子大学
眞喜志 悦子

地域文化デジタル化事業の三つのキーワード

総務省の地域文化デジタル事業（デジタルミュージアム構想）の推進（平成19年5月）

ためる
つなぐ
いかす

地域文化デジタル化事業の三つのキーワード

総務省の地域文化デジタル事業（デジタルミュージアム構想）の推進（平成19年5月）

- ためる** デジタルで記録・蓄積
文化や自然遺産を後世に永久に継承
- つなぐ** ネットワークにより供給ソフトの交換や連携が可能に
施設の活性化、地域間交流、芸術家間の交流、住民の方々の交流へ
- いかす** デジタル画像を「資産」として再加工・再編集する
さらに番組にしたり、印刷物にする
利活用の幅が広がる



沖縄タイムス
2013年（平成25年）7月27日

「公立小 メモ日記廃止へ」

教員は毎日、全児童の日記を確認するため、休み時間や給食、清掃の時間を費やす。一方で、児童の思考や表現力、文章力の向上に役立っていないなどの課題が、全国学力テストの国語では例年、考えを述べている。
(中略)
さらに、公立小中学校の運動会や学習祭、文化祭など、児童の個性や能力を伸ばす機会を、完璧さや華美を追求する傾向にあるとみている。（以下略）

学力向上は
沖縄県の悲願

沖縄タイムス 2013年（平成25年）7月27日

沖縄県の全国学力・学習状況調査の順位

科目/年	H25 (2013)
国語A	46
国語B	47
算数A	47
算数B	46

ふたつの実践研究と岐阜女子大学



井口 憲治 先生 (A小学校教頭)



後藤 忠彦 先生 (岐阜女子大学)



宮城 卓司 先生 (B小学校教頭)

A小学校の成果

全国学力・学習状況調査の平均正答率比較

小学校算数A (6年生 130名)	平成25年度	平成26年度	平成27年度
全国	77.2	78.1	75.2
秋田県	82.8	85.1	81.2
沖縄県	73.3	80.9	77.7
A小学校	71.7	86.6	82.5

